

科学技術政策担当大臣等政務三役と
総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合
議事概要

- 日 時 平成26年9月11日（木）10：00～10：14
- 場 所 中央合同庁舎8号館 8階特別中会議室
- 出席者 山口大臣、平副大臣、久間議員、大西議員、小谷議員、中西議員、
橋本議員、平野議員
阪本内閣府審議官、倉持統括官、森本審議官、中西審議官、山岸審議官、

○久間議員 それでは、最初に大臣から、御挨拶をお願いします。よろしくお願いします。

○山口大臣 皆さん、おはようございます。

ただいまご紹介、御指名をいただきました。この度、総理から科学技術を担当せよということで、内閣府特命担当大臣を仰せつかりました山口俊一でございます。実は就任に当たりまして、総理からも、この総合科学技術・イノベーション会議、色々な改革を進めており、とりわけ前の山本大臣が一生懸命頑張っておられたので、それを引き継いでしっかりやりなさいというお話をいただいたところでございます。

早速、今日はこうした会議に出席をさせていただいたわけですが、実は私も以前に、科学技術委員会での理事や筆頭理事を長らく務めさせていただいて、ただ当時は結構原発事故がございました。その対応に追まくられたような思いがあるわけではありますが、色々と科学技術には私にも思い入れがございます。しかも大臣の前には、自民党において国家戦略本部長を仰せつかっておりまして、2030年というのを念頭に置きながら、では科学技術はどういうふうになっているのだろうか、或いは人口はどうだということで、では今から何をなすべきかということで、色々な勉強会をやっておりまして。大西先生にもおいでいただいて、お話をいただいたりして、中間報告を取りまとめさせていただきました。とりわけ科学関係に相当多くのウエイトを置かせていただいたわけですので、色々な思いがあります。せっかく新しい形で、司令塔としてしっかりと機能し始めたこの会議ですので、どうか先生方、さらにお力添えを賜りまして、これからの日本のために一番大事なこの科学技術振興に対し、御尽力を賜ればと思っておりますので、どうぞよろし

くお願いをする次第でございます。

ありがとうございました。

○久間議員 どうもありがとうございました。

それでは、副大臣から御挨拶をお願いします

○平副大臣 皆さん、おはようございます。この度、担当の副大臣を拝命いたしました平将明です。どうぞよろしくお願いを致します。

今、山口大臣からお話しありましたとおりでございますが、科学技術をしっかりとイノベーションに結びつけていく、ここ数年の新しいこれが役目であろうと思います。私自身は専ら経済政策、成長戦略、またベンチャー政策など、取り組んでまいりました。そういった中で国際競争が厳しくなり、さらに人口減少していく中で、どうイノベーションを起こしていくのか、飛躍的に生産性を上げていくのかということが最大の課題でありました。皆さんの議論を踏まえて、さらにそういった対応がこの国で機能強化できるようにしてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いを致します。

ありがとうございます。

○久間議員 どうもありがとうございました。

それでは、次に各議員から自己紹介と、一言、ご挨拶をお願いします。

○小谷議員 小谷と申します。専門は数学でございまして、あと、国から多彩な御支援をいただいておりますWPIプログラムの拠点長をしております。科学技術によって日本からイノベーションが発信できるように、特に今ある課題と、それから将来的に持続的に日本が発展していけるような基礎科学、このバランスをどういうふうにとっていくかということに関心を持っております。どうぞ、よろしく御支援をお願い致します。

○中西議員 日立製作所の会長を務めております。イノベーションというのは我々の会社にとっても、或いは日本の産業にとっても、極めて重要な、言ってみれば企業の力そのものの推進力であるというふうに思っておりますので、お国の政策の中でそれを一生懸命考えさせていただき御機会をいただいておりますことは、大変有難いと思っております。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

○橋本議員 橋本でございます。東京大学の教授をしております、専門は化学です。今、政府のほうから、産業競争力会議の議員も仰せつかっております、この総合科学技術・イノベーション会議との連絡をしっかりと密にとって、それで司令塔機能を発揮するように、

それから政府の意向等々もしっかり反映させながら、同時にこちらの議論も競争力会議に反映させるようにという使命をいただいておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

○平野議員 大阪大学の平野でございます、大阪大学の総長を務めさせていただいております。専門は免疫医学であります。日本の科学技術政策を考えるときには、やはり、短期的なことと中期的なこと、それから長期的なこと、これらをいかにバランスをとっていくかということが非常に重要だと思います。また、先ほど大臣も仰いましたように、2030年、或いは2050年、そういう長期的な展望を見据えた上で、短期的或いは中期的な課題に対応していくことも必要だと考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

○大西議員 大西隆といいます。

私は日本学術会議会長として、この総合科学技術・イノベーション会議の議員をしております。会長の任期は9月30日までであります、本務は豊橋技術科学大学の学長をしております。こちらは技術科学大学で、この会議は科学技術・イノベーション会議と、順番が違いますが、技術がまずあると。その技術の背後には科学がある。科学を極めることでより応用がきくという、イノベーションにつながるという、そういうのが建学の精神であります。その意味では、総合科学技術・イノベーション会議と私の大学、目的とするところは非常に共通していると思います。ここで色々議論したことをうまく大学にも持ち帰って、いわば先頭を切ってこのイノベーションに向けての研究というものを進めていくことができればと思います。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

○久間議員 去年3月1日から常勤議員を務めている久間と申します。よろしくお願い致します。私は三菱電機出身です。同じ常勤議員である原山議員、それから大西先生含めて6名の非常勤議員の方々と仲良く、ポジティブに前向き思考で議論を重ねていますので、今後ともよろしくお願い致します。

それでは、本日の議題に入ります。最初の議題は「独立行政法人の目標策定及び評価に関する指針について」、事務局からお願いします。

○議事概要

議題1 独立行政法人の目標策定及び評価に関する指針について

〈内閣府 井上企画官から説明〉

○久間議員 ありがとうございます。これまで、各研究開発法人の評価は、理研や産総研なども含めて、いかに効率的に業務を運営しているかという点でした。それでは、研究開発の最大化が実現できないため、業務の運営効率を追求するとともに、もっと大事な研究開発成果の最大化を評価していくところが大きな変更点です。それに伴い、総務省が評価をする研究開発業務効率化に加え、総合科学技術・イノベーション会議が研究開発成果最大化に向けて、各研究開発法人がきちんと機能しているかどうかを評価する仕組みを入れたことが大きな変更点です。

それでは、皆さんからご意見等ありましたらお願いします。よろしいでしょうか。100%総務大臣に御理解いただいたことは大きな成果だと思います。

どうもありがとうございました。

これで本日の科学技術政策担当大臣と政務三役と総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合は終了させていただきます。

どうもありがとうございました。